

■知的障害のある子どもたちへの実践事例

マルチメディアDAISY図書をより身近に！

——情報教育との連携によるiPadでの活用に取り組んで

鳥取大学附属特別支援学校

児島 陽子・勢登 睦・内田 成俊・入川 加代子

はじめに

本校では、2014年12月に学校図書館の隣にワーキングルームを併設し、マルチメディアDAISY図書を配架して、活字の読みに苦手さのある子どもたちのための読書スペースを設けました。学級活動の時間や昼休憩を中心にワーキングルームに来て、少しずつ視聴する姿が見られるようになってきています。

また、昨年度はiPadが43台導入され、1人が1台iPadを使える環境が整いました。そこで、マルチメディアDAISY図書をiPadに入れて、もっと手軽に視聴できるようにと試みましたが、全部のiPadに入れることが難しく、まだまだ一部の教師のみの取り組みにとどまり、学校全体へ広げていくことが課題でした（わいわい文庫活用術③参照）。

研究目的

そこで、今年度は情報教育主任と連携し、どのような環境を整備すれば、

子どもたち一人ひとりが自分の読みたい図書を選び、iPadを使ってもっと手軽にマルチメディアDAISY図書に親しむことができるようになるか、また、教職員に関心をもって活用してもらえるようになるかということを目的として、研究に取り組みました。

実際の取り組み

（1）情報教育主任との連携で取り組んだ環境整備

まず、校内のiPadに簡単にマルチメディアDAISY図書を導入できる環境を整えました。

学校図書館に整備されている検索用のデスクトップパソコンに専用フォルダを作成し、圧縮したマルチメディアDAISY図書のデータを保存して活用できる準備を整えました。そして、子どもたちや教職員がそのデータにアクセスしやすいよう、パソコンのデスクトップにそのフォルダへのショートカットを作成しました（資料1）。また、共有サーバ上に「DAISY図書デー

データベース」(資料2)を構築して、子どもたちや教職員に、どのような書籍がマルチメディアDAISY図書として保存されているかを、実際に使われている表紙の絵が見えるようにして、視覚的にわかりやすく提示しました。

さらに、学校司書がマルチメディアDAISY図書一覧の紙媒体のものにラミネートをかけて、検索用パソコンの横に置き、実際に絵やタイトルを見て、読みたいマルチメディアDAISY図書を選べるようにしました(資料3)。

資料1



資料2



資料3



(2) 中学部2年の実践

①生徒の実態

中学部2年は3名の学級で、発達年齢に大きな幅がある集団です。読書に関しても、比較的すらすらと活字が読める生徒、拾い読みの段階の生徒、まだ文字が読めなくて文字と音のマッチングが必要で、そのための学習を進めている生徒とさまざまです。

この生徒は、図書館での絵本の読み聞かせでは、話の内容が難しかったり、時間が長かったりすると集中が続きません。また、YouTubeなどの映像での絵本の読み聞かせプログラムを視聴した時も、本人が興味があって選んだ動画だったとしても20秒程度しか集中して視ることができませんでした。

しかし、この生徒は、絵本、旅行本、雑誌などに興味があり、以前から読書が好きということで本をよく借りていました。読書といっても文字を追いつき進めるのではなく、イラスト・絵などをながめているという程度で基本的には音を聞いて物事を理解することがほとんどの生徒です。

じっくりと一冊の書籍などに集中するのも難しく、DVD、教材などの読み聞かせの視聴や、紙芝居の上演の場面でも雰囲気だけを味わっているだけのようでした。中学部入学時は、ひらがなはほぼ読めていたもののカタカナは読めなかったため、基本的な文字が読

めれば、文字を追い、内容を理解しながら読書ができるのではないかと考えました。そこでiPadのカタカナアプリでカタカナを学習し、並行して文字のなぞりがきのアプリでの文字の学習も進めていきました。また、その都度デスクトップパソコンを使ってマルチメディアDAISY図書の学習を行いました。

当時はまだデスクトップパソコンのみでしか視聴することができない環境だったので、なかなかマルチメディアDAISY図書を操作する機会も多くありませんでした。

しかし今年度になって、中学2年生の夏休み明けより、学校司書、司書教諭、情報教育主任、担任の協力を得てタブレット端末用のアプリであるボイスオブデイズを活用することにしました。活用しやすいよう学校司書がタイトル・イラスト付の「DAISY図書一覧表」を作ったり、情報教育主任がすべてのiPadで書籍データを扱えるように環境を整備したりしたことで、生徒が興味のある本を選ぶことが容易にできるようになりました。

iPadは読みたいと思った時に瞬時に起動できるので、すぐに読みたいという気持ちに応えることができることと、パソコンとは違い視線を大きく動かすことなく文字を読めるので集中することもできたことが意欲を高めることにつながったようです。図書の一覧表から好

きな本を探しだし、自分が選んだマルチメディアDAISY図書をiPadへ入れてもらった時には、満面の笑顔でした。水族館が好きなので、自分で『海の中のぞいてみよう』を選んで視聴したり、小学部の時から親しんでいる『はらぺこあおむし』の分かち読み、さらには友だちが読んでいる『あたらしい関西のでんしゃずかん』を進んでiPadに入れてもらい、視聴したりする姿が見られました。



教室でiPadを使っての読書

②まとめ

マルチメディアDAISY図書はタブレット端末とくみあわせることで、より高い教育的効果を発揮するものだと思います。DAISY図書用のアプリは無駄がなく、操作もシンプルなので、内容に集中して取り組むことができます。

また、本文のハイライト機能、文字のサイズ変更などのカスタマイズが容易なので、個々の生徒の実態に柔軟に合

わせることができ応用が効きます。この実践を続けるうちに、DAISY図書で読んだのと同じ本を図書館で探して、本の文字を指で押さえながら文字を拾い読みしようとするが増えてきました。ただ、文字の大きさを200%にして文字を目で追っていますが、挿絵を見たくて画面を挿絵が見えるように動かすと文字が画面から消えて、つぎのページに進むまで戻すことができなくて困っている場面も見られました。

将来的には、iPod touchのような携帯端末も合わせて活用していくことで、外出先など、場所を選ばず、好きな本を楽しむことができ、余暇での活用の幅がより広がりそうだと考えています。

おわりに

学校図書館と情報教育が連携し、環境を整備することで、子どもたちにマルチメディアDAISY図書を活用させようとする教職員が増えるとともに、子どもたち自身が、自分が活用しているiPadにこの書籍を入れて欲しいと図書館を訪れ、学習や読書に活用する姿が見られるようになりました。

操作が簡単なので、担任教師が実際に生徒のiPadにマルチメディアDAISY図書を子どもたちの目の前で入れることで、自分のiPadにマルチメディアDAISY図書が入った時の喜びが大きく、意欲的に読書に取り組む姿が見られました。



担任教師に依頼

また、中学部3年生の生徒に司書教諭が『ひろしまのピカ』を教室で読み聞かせを行った後は、担任教師が生徒のiPadに『ひろしまのピカ』を入れ、朝読書の時間に全員でiPadを使って教室で読書を行う姿も見られました。

実際の本を読んだ後にマルチメディアDAISY図書に親しんだり、視聴した後で実際の本を借りて読んだりする姿が見られ、それぞれの媒体の良さを感じることができました。



朝読書『ひろしまのピカ』

以上のように、情報教育と連携することで、iPadを活用して、教室などで手軽にマルチメディアDAISY図書を読むことができるようになり、マルチメディアDAISY図書が子どもたちや教職員にとって、より身近なものになってきています。

今後も情報教育と連携しながら、より活用しやすい環境づくりと保護者への啓発活動、さらには自作のマルチメディアDAISY教材作りにも挑戦し、コンテンツの充実に努めていきたいと考えています。

